

製品名: CDC37 (リン酸化 Ser13) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21546**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	ホスホ
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:400-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:44kD;Observed MW:44kD

抗原情報

遺伝子名	CDC37
別名	CDC37;CDC37A;Hsp90 co-chaperone Cdc37;Hsp90 chaperone protein kinase-targeting subunit;p50Cdc37
遺伝子 ID	11140.0
SwissProt ID	Q16543
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

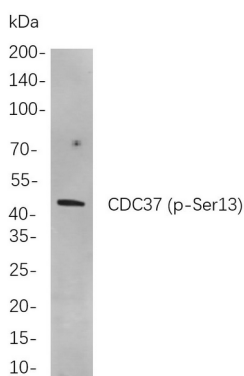
背景細胞局在: 細胞質。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、サッカロミセス・セレビシエ (*Sacchomyces cerevisiae*) の細

胞分裂周期制御タンパク質である Cdc 37 と高い類似性を示す。このタンパク質は、細胞シグナル伝達において特異的な機能を持つ分子シャペロンである。Hsp90、CDK4、CDK6、SRC、RAF-1、MOK、eIF2 α キナーゼなど、様々なタンパク質キナーゼと複合体を形成することが示されており、Hsp90 を標的キナーゼへ誘導する上で重要な役割を果たすと考えられている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

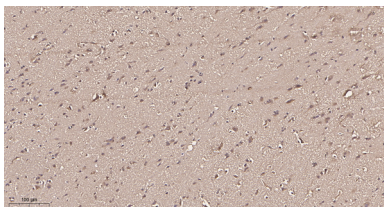
研究分野

-

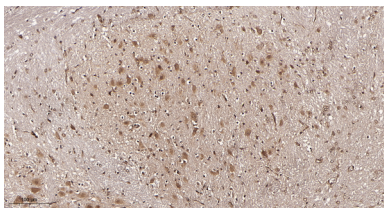
画像データ



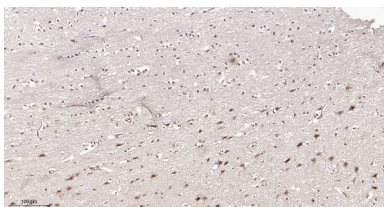
CDC37 (p-Ser13) Rabbit mAb を用いた PC-12 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学分析。1. CDC37 (リン酸化 Ser13) ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. EDTA pH 9.0 を用いて抗体を賦活 (>98°C、20 分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス脳組織の免疫組織化学分析。1. CDC37 (リン酸化 Ser13) ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. EDTA pH 9.0 を用いて抗体を賦活 (>98°C、20 分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット脳組織の免疫組織化学分析。1. CDC37 (リン酸化 Ser13) ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. EDTA pH 9.0 を用いて抗体を活性化 (>98°C、20 分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。